

令和6年度 第10回

希望郷いわてモニターアンケート
食の安全安心及び食育に関する意識調査

【報告書】

令和7年3月

岩手県環境生活部県民くらしの安全課

I アンケート調査の概要

1 調査課題名

食の安全安心及び食育に関する意識調査

2 調査の目的

岩手県食の安全安心推進計画及び岩手県食育推進計画の推進を着実に図り、本県の食の安全安心の確保及び食育の推進につなげていくため、計画に基づく施策や取組の参考とするものである。

3 調査期間

令和7年1月14日（火）から1月28日（火）まで

4 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

5 調査対象

令和6、7年度希望郷いわてモニター 200名

6 回答者数

166名

7 回答率

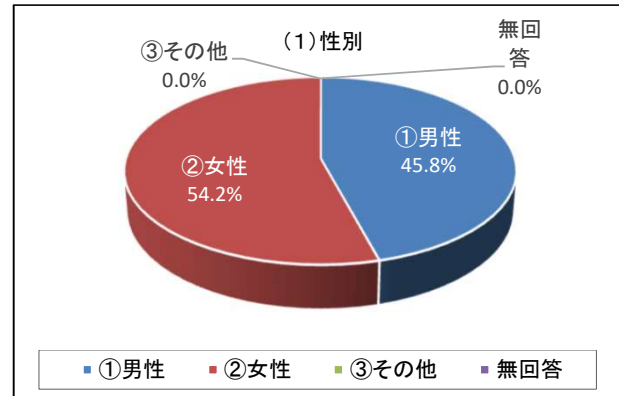
83.0%

II アンケート集計結果

問1 あなたの性別、年齢、職業、居住地についてお聞かせください。

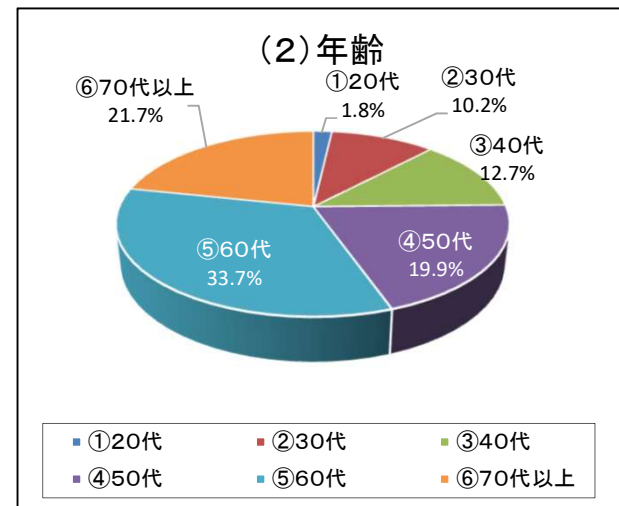
(1)性別

①男性	76
②女性	90
③その他	0
無回答	0
計	166



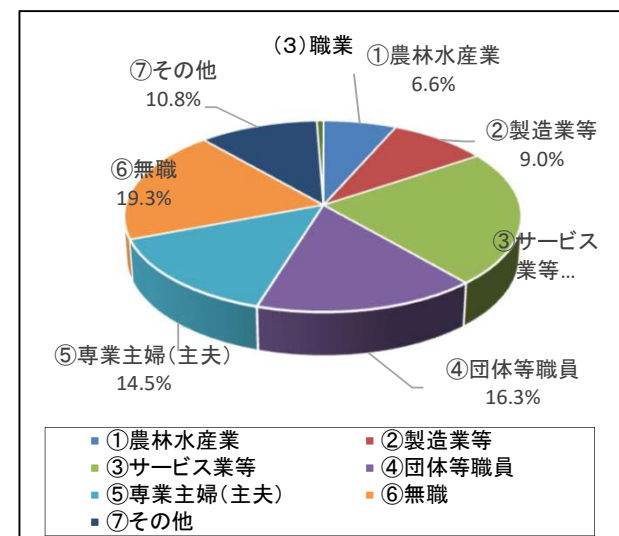
(2)年齢

	合計	男性	女性	無回答
①20代	3	1	2	0
②30代	17	6	11	0
③40代	21	11	10	0
④50代	33	12	21	0
⑤60代	56	28	28	0
⑥70代以上	36	18	18	0
計	166	76	90	0



(3)職業

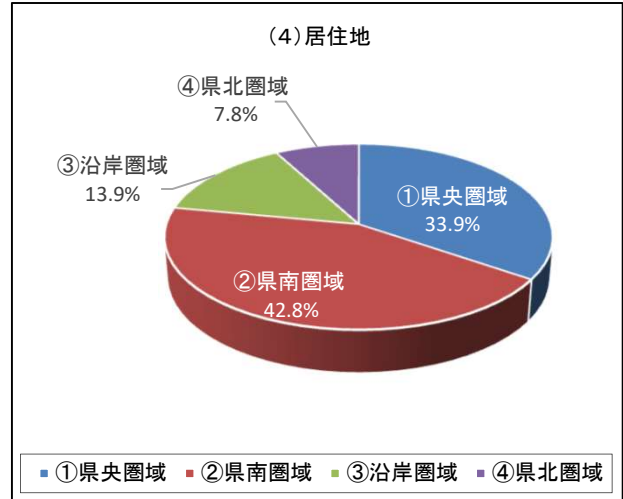
	合計	男性	女性	無回答
①農林水産業	11	4	7	0
②製造業等	15	10	5	0
③サービス業等	38	15	23	0
④団体等職員	27	12	15	0
⑤専業主婦(主夫)	24	3	21	0
⑥無職	32	24	8	0
⑦その他	18	7	11	0
無回答	1	1	0	0
計	166	76	90	0



※「その他」の内訳: 学生、パート、自営業、小売業、医療従事者 等

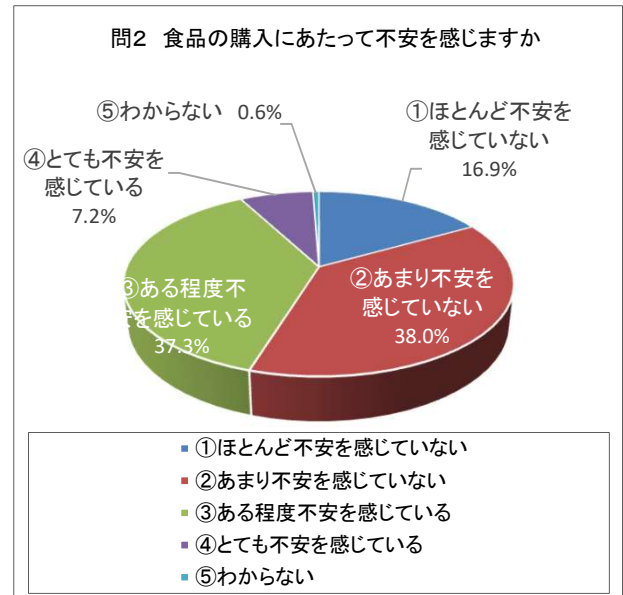
(4)居住地

①県央圏域	59
②県南圏域	71
③沿岸圏域	23
④県北圏域	13
計	166



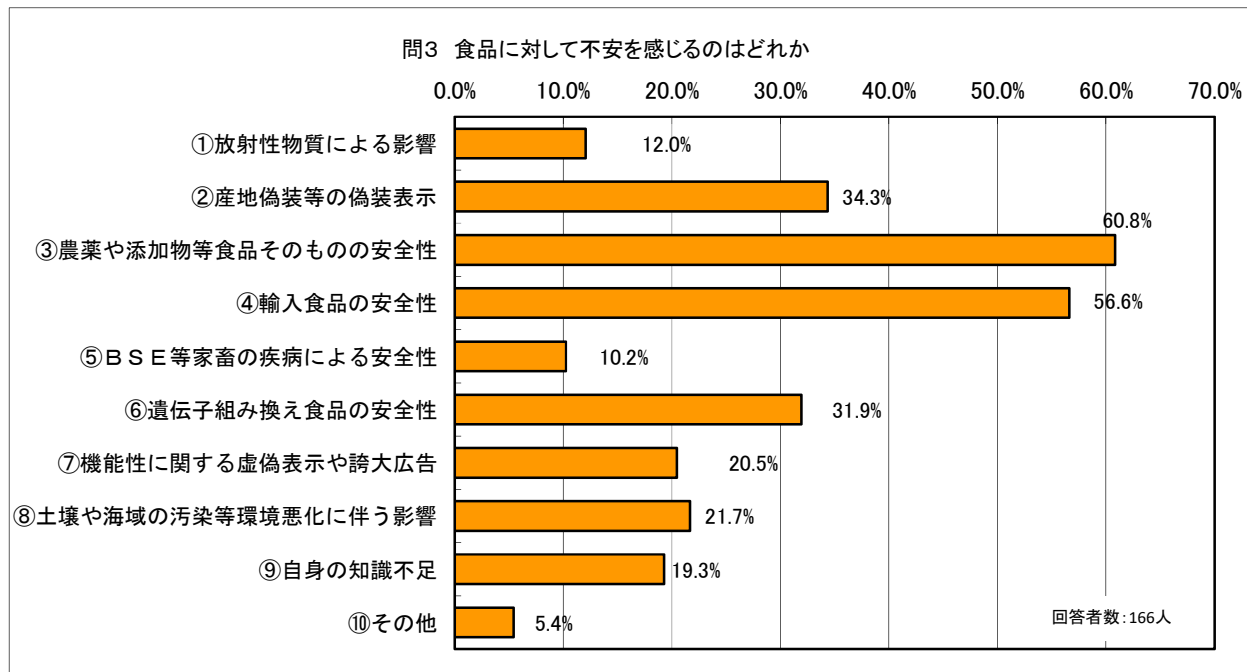
問2 あなたは、普段、食品の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①ほとんど不安を感じていない	28
②あまり不安を感じていない	63
③ある程度不安を感じている	62
④とても不安を感じている	12
⑤わからない	1
計	166



食品購入に当たって不安を感じる人の割合は44.5%であり、不安を感じない人の55.5%を下回っているが、前回(令和6年3月調査。以下同じ)の39.0%から増加している。

問3 あなたが食品に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 価格高騰、農林水産業の将来的な持続性

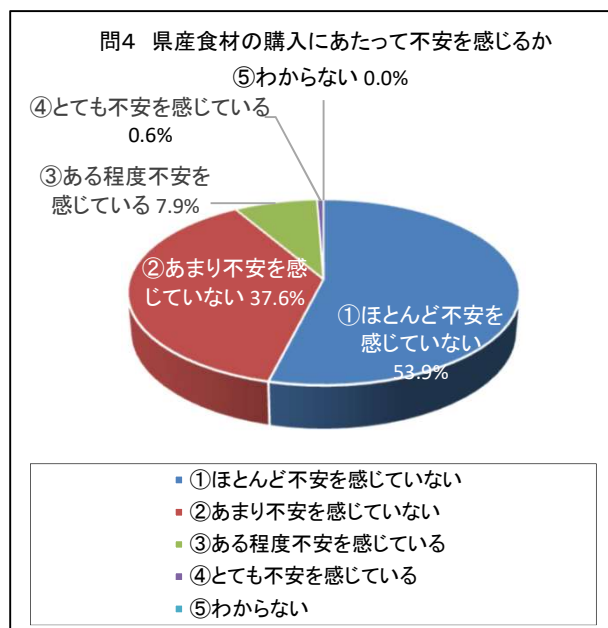
不安を感じる理由は、「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(60.8%、前回57.6%)」が最も多く、次いで「④輸入食品の安全性(56.6%、前回55.7%)」、「②産地偽装等の偽装表示(34.3%、前回42.4%)」の順に多かった。

また、「⑥遺伝子組み換え食品の安全性」は31.9%と、前回(30.4%)よりも増加し、「⑦機能性に関する虚偽表示や誇大広告」においても20.5%と、前回(17.7%)よりも増加している。

その他、「①放射線物質による影響」は12.0%と、前回(16.5%)よりも減少し、「②産地偽装等の偽装表示」においても34.3%と、前回(42.4%)よりも減少している。

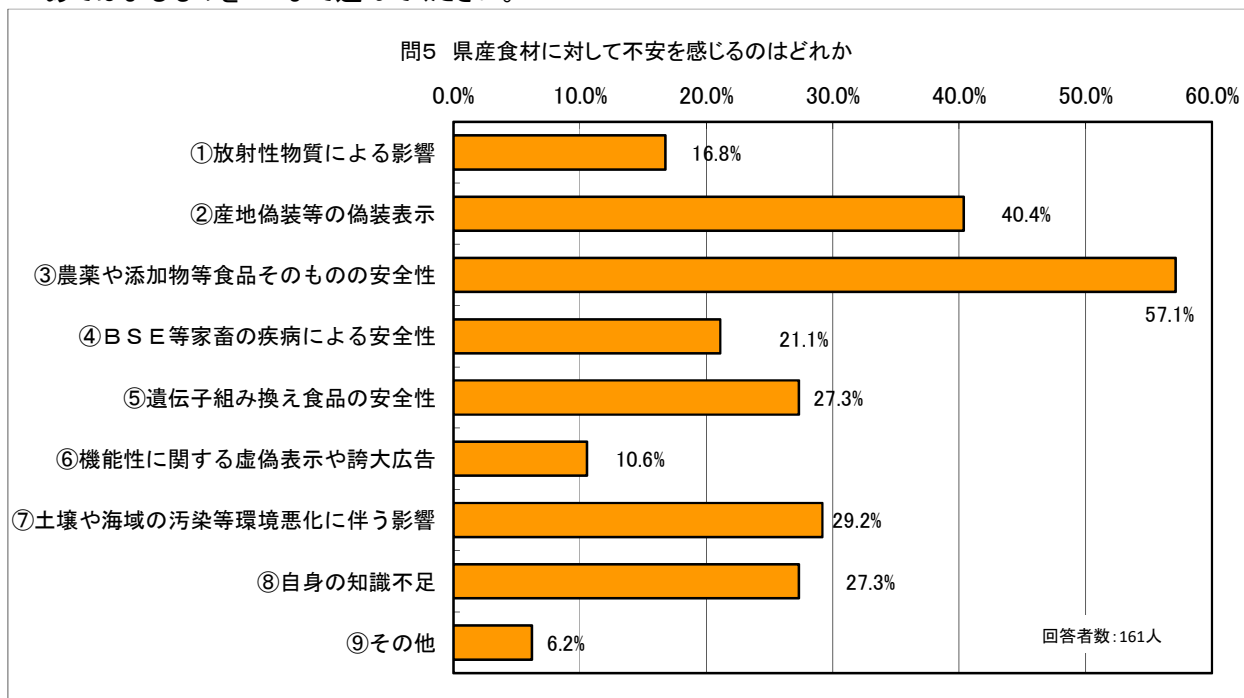
問4 あなたは、普段、県産食材の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①ほとんど不安を感じていない	89
②あまり不安を感じていない	62
③ある程度不安を感じている	13
④とても不安を感じている	1
⑤わからない	0
計	165



県産食材の購入に当たって不安を感じている人は8.5%(前回9.4%)となっており、不安を感じない人の91.5%(前回89.9%)を大幅に下回っている。

問5 あなたが県産食材に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

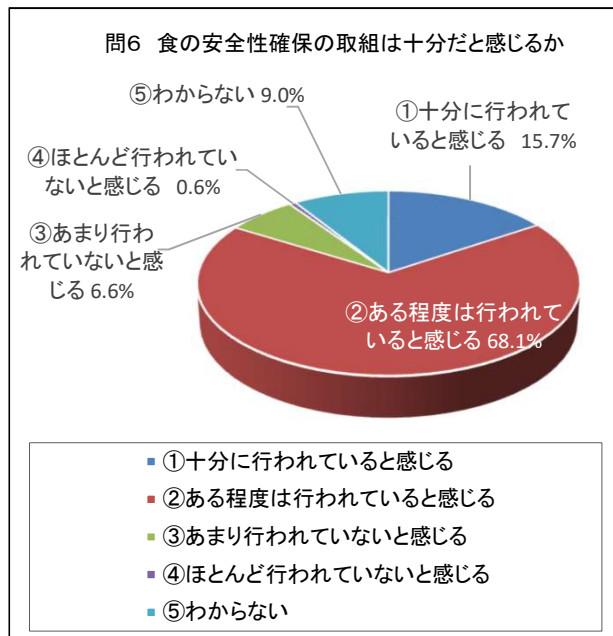


※「その他」の主なもの: 価格高騰、生産継続性、農林水産業の将来的な持続性 等

県産食材の購入に不安を感じる理由は、「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(57.1%、前回62.4%)」が前回調査と同様に最も多く、次いで「②産地偽装等の偽装表示(40.4%、前回40.8%)」、「⑦土壌や海域の汚染等環境悪化に伴う影響(29.2%、前回32.5%)」、の順に多かった。

問6 あなたは、県内の食品関連事業者(農林水産物の生産者や食品を取り扱う事業者)の食の安全性確保の取組が十分に行われていると感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

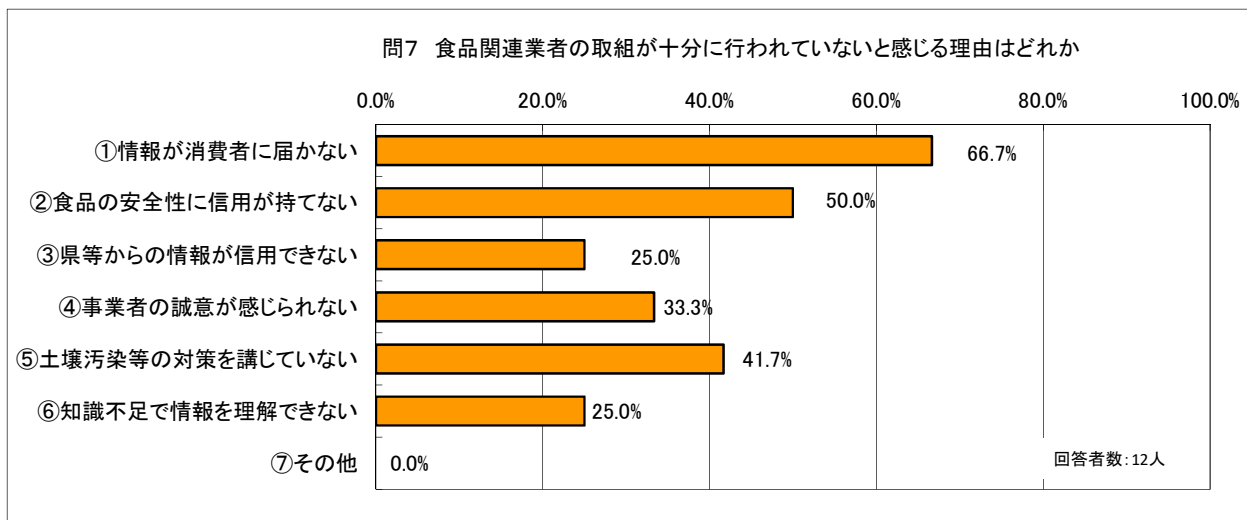
①十分に行われていると感じる	26
②ある程度は行われていると感じる	113
③あまり行われていないと感じる	11
④ほとんど行われていないと感じる	1
⑤わからない	15
計	166



安全性確保の取組が行われていると感じる人の割合は、83.7%(前回86.8%)となっており、県内の食品関連事業者の取組については、概ね理解されている結果となった。

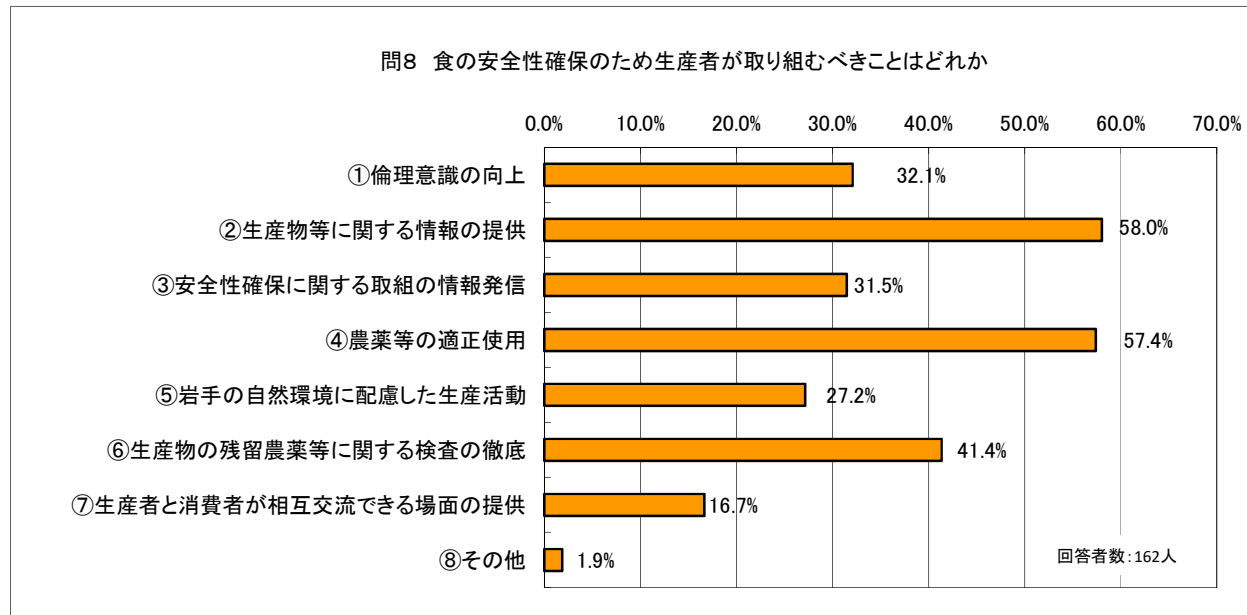
問7 問6で③又は④を選んだ方にお聞きます。

あなたは、県内の食品関連事業者の取組が十分に行われていないと感じる理由は、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



安全性確保の取組が十分ではない理由は、「①情報が消費者に届かない(66.7%、前回16.7%)」が最も多く、次いで「②食品の安全性に信用が持てない(50.0%、前回41.7%)」、「⑤土壌汚染等の対策を講じていない(41.7%、前回33.3%)」の順に多かった。

問8 あなたは、県内の生産者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは、次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



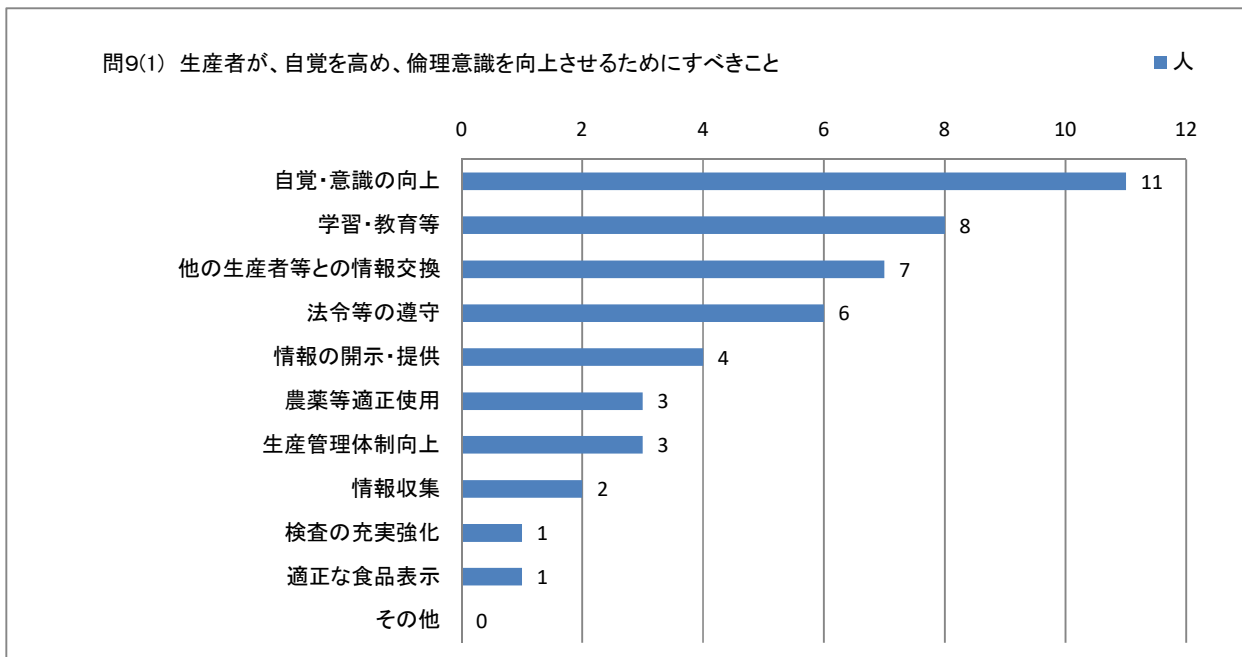
※「その他」の主なもの: 基本的な情報発信 等

県民が求める生産者の取組は、「②生産物等に関する情報の提供(58.0%、前回47.2%)」が最も多く、次いで「④農薬等の適正使用(57.4%、前回59.7%)」、「⑥生産物の残留農薬等に関する検査の徹底(41.4%、前回50.3%)」の順に多かった。

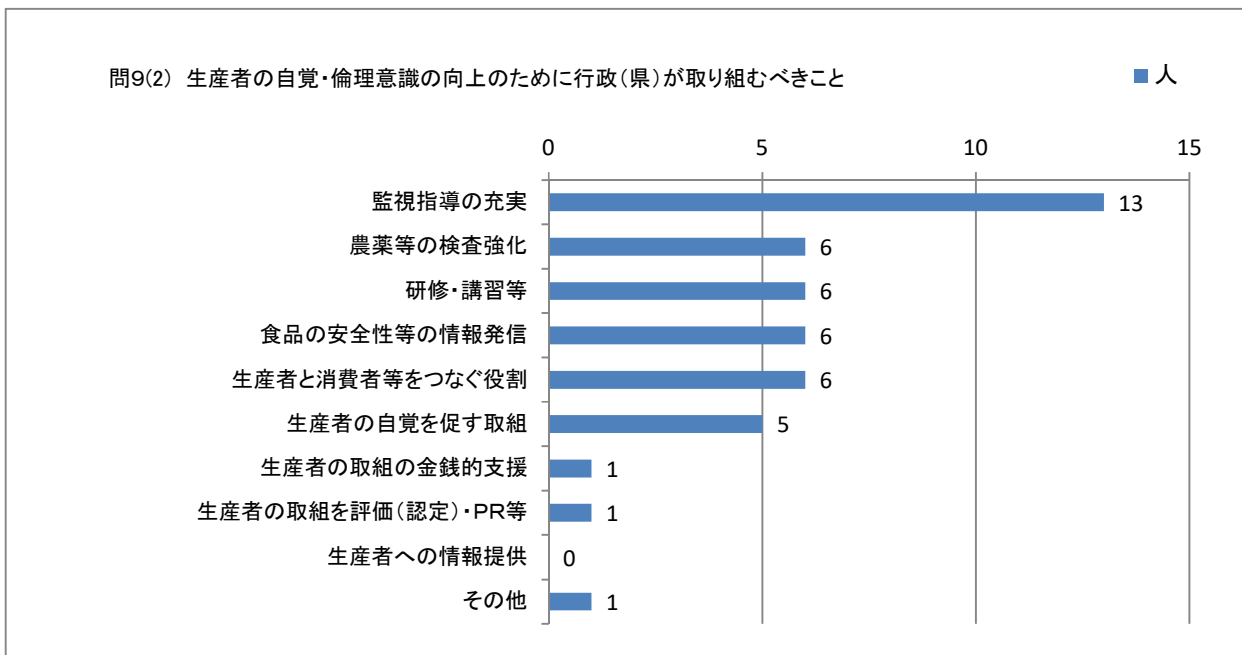
問9 問8で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

あなたは、生産者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思えますか。(自由記載)

(1) 生産者がすべきこと



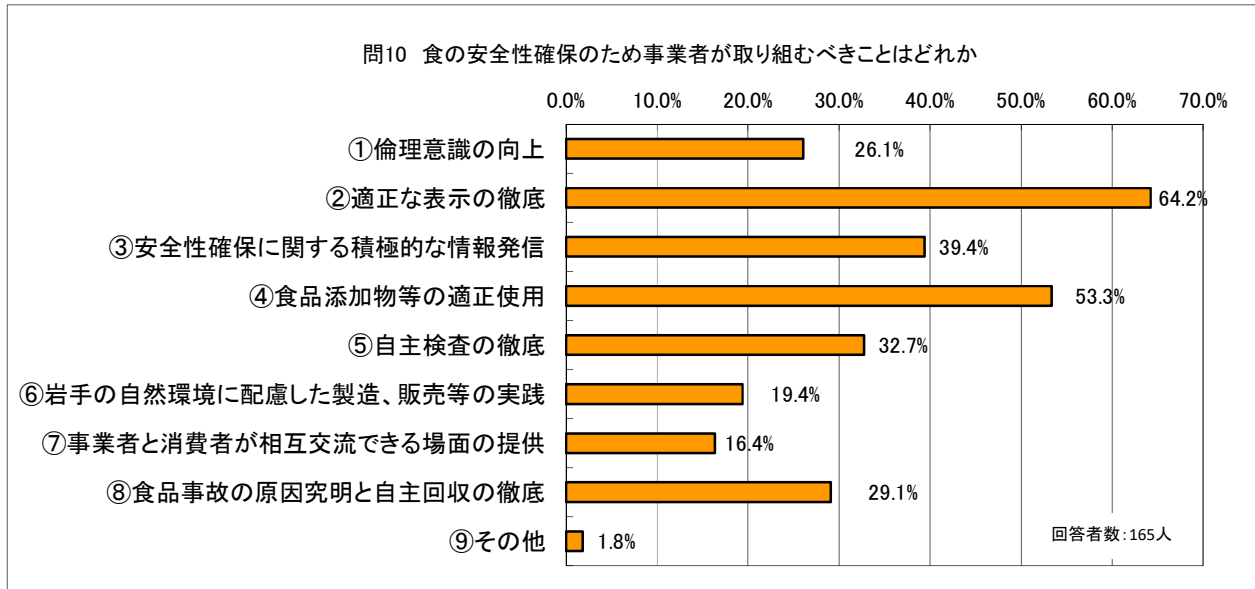
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



※「その他」の主なもの: 生産者に正しい情報を提供する安全な食(食品)に対する買取価格の適性化 等

生産者が取り組むべきこととして、「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、生産者がすべきこととしては、「自覚・意識の向上」に関すること(11人)が最も多く、行政(県)が取り組むべきこととしては、「監視指導の充実」に関すること(13人)が最も多かった。

問10 あなたは、食品の製造、販売等を行う事業者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

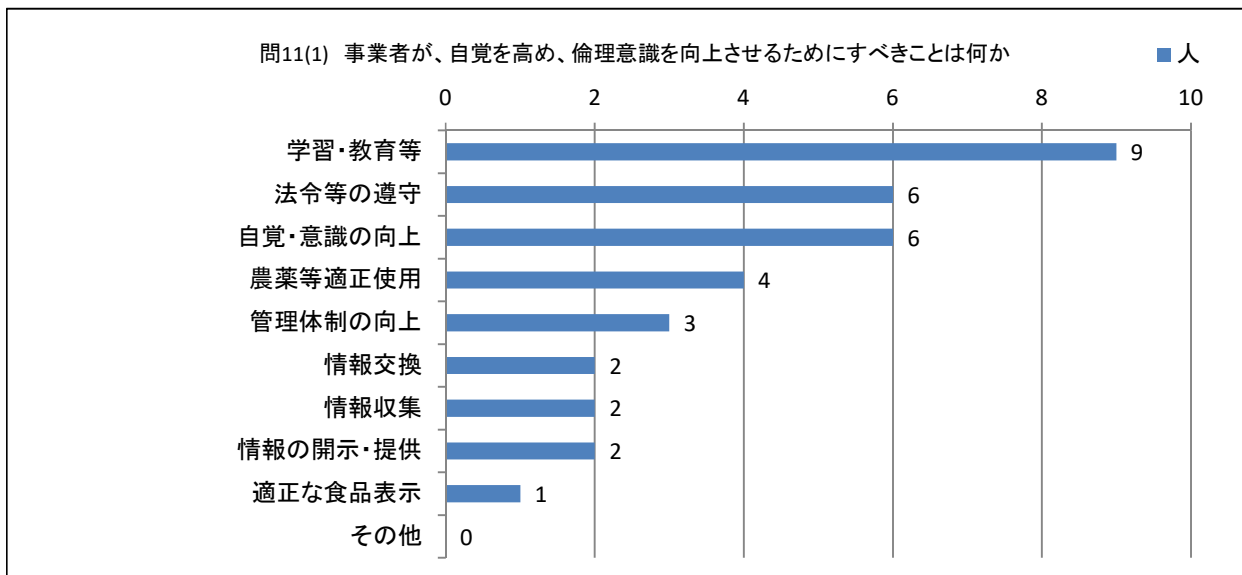


県民が求める事業者の取組は、「②適正な表示の徹底(64.2%、前回61.6%)」が最も多く、次いで「④食品添加物等の適正使用(53.3%、前回45.9%)」、「③安全性確保に関する積極的な情報発信(39.4%、前回34.0%)」の順に多かった。

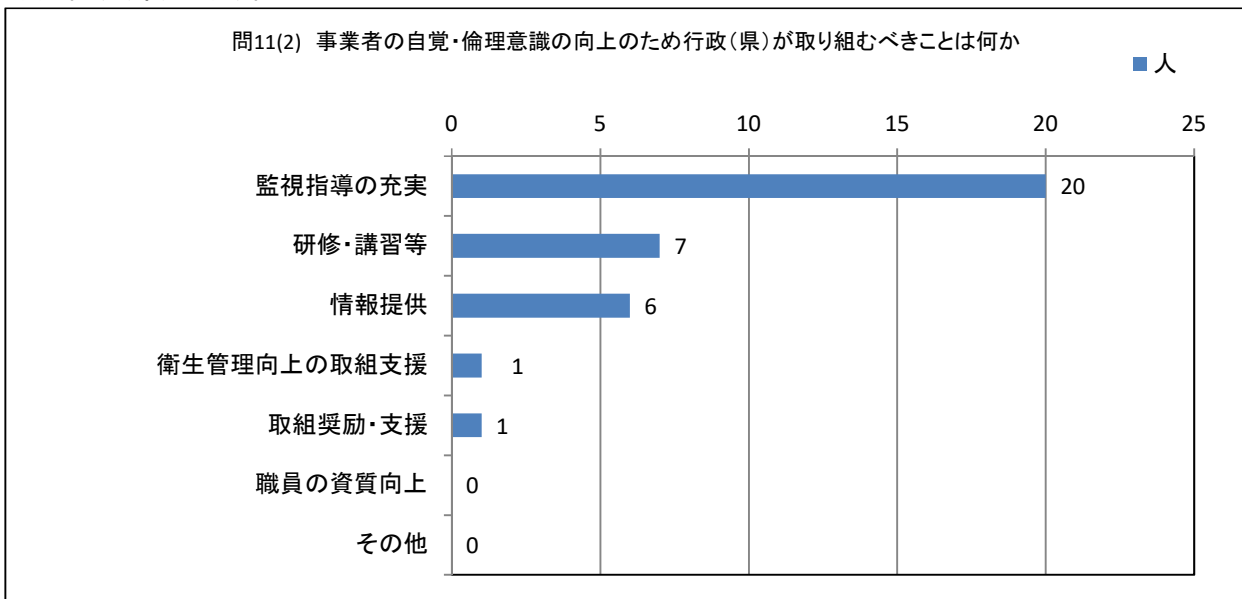
問11 問10で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

あなたは、製造、販売等の事業者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思えますか。(自由記載)

(1) 事業者がすべきこと

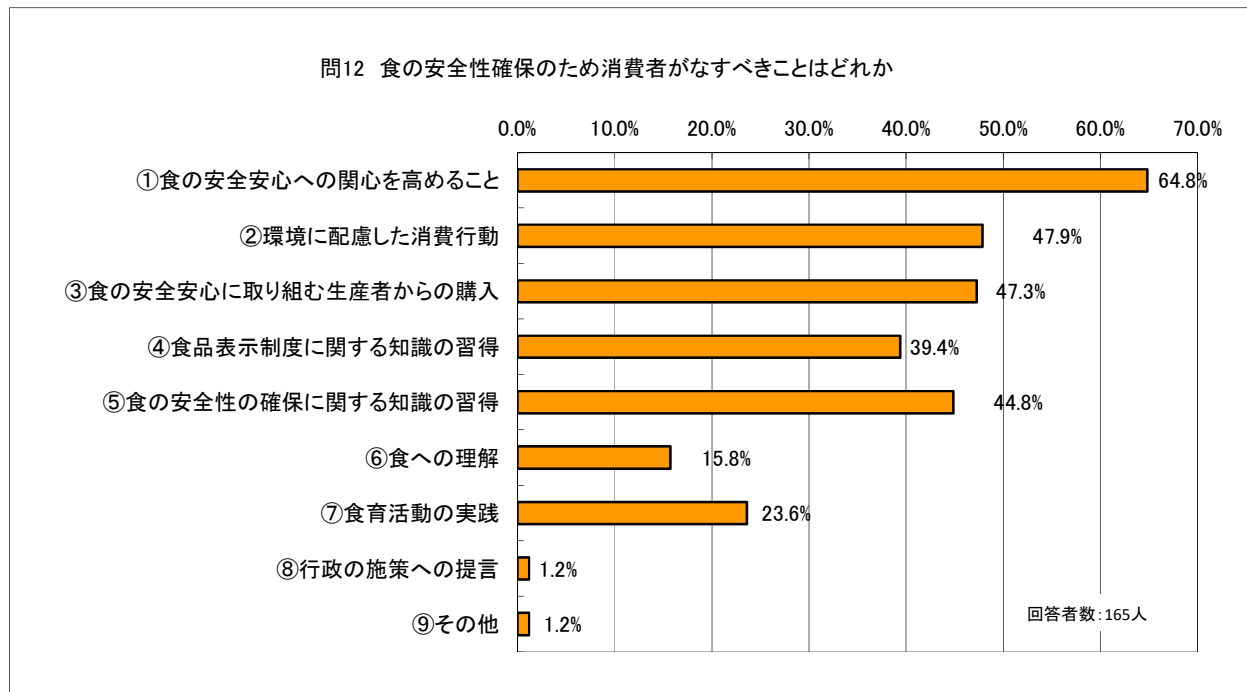


(2) 行政(県)が取り組むべきこと



事業者が取り組むべきこととして「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、事業者がすべきこととしては、「学習・教育等」に関すること(9人)が多く、行政が取り組むべきこととしては、「監視指導の充実」に関すること(20人)が多かった。

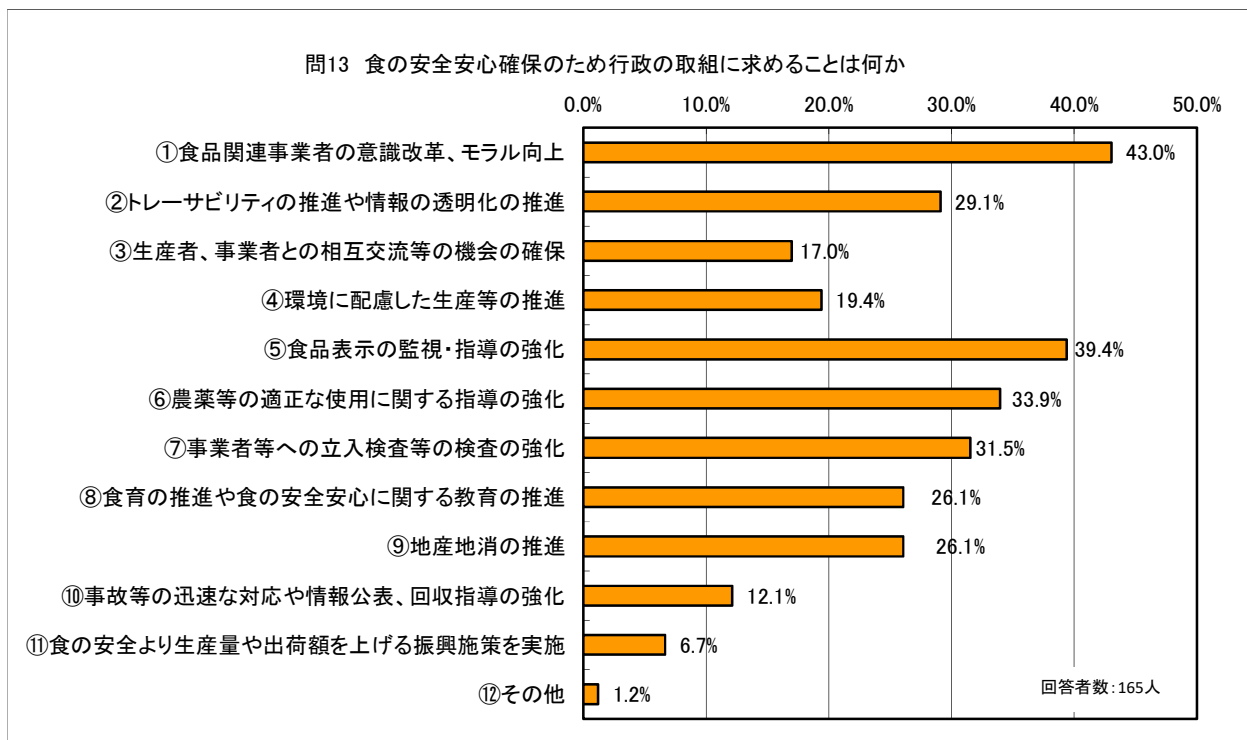
問12 あなたは、食の安全安心の確保のため、消費者がなすべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 生産者、販売者、消費者双方における合理的で適正なフェアトレードへの理解

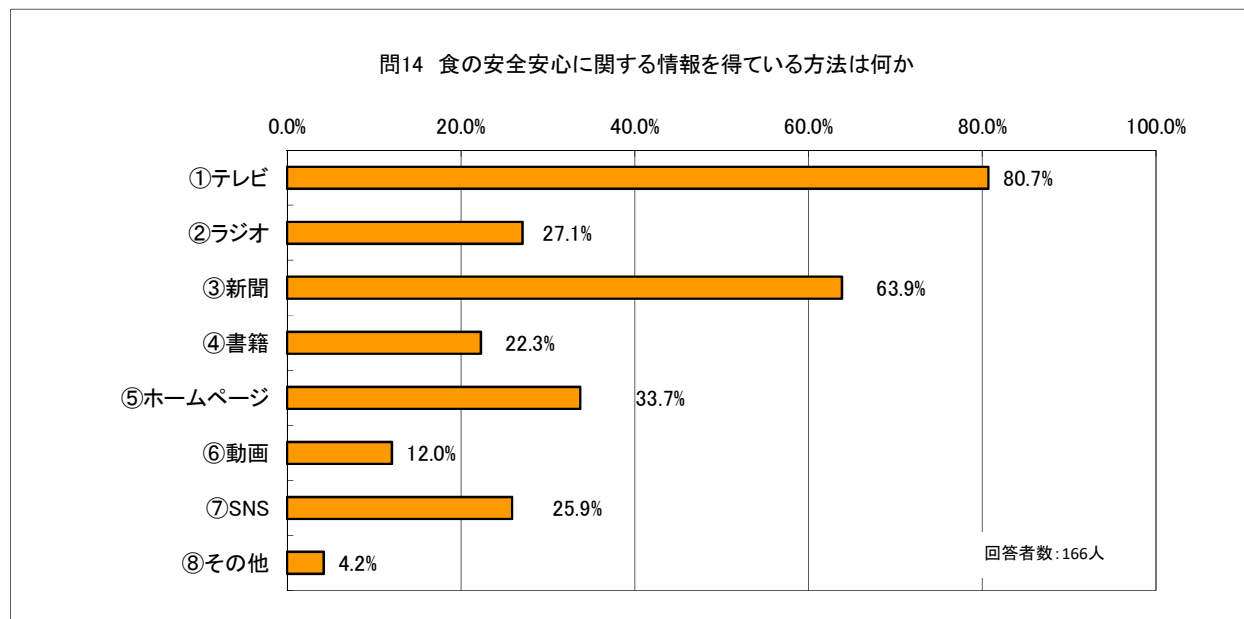
消費者がなすべき取組としては、「①食の安全安心への関心を高めること」(64.8%、前回64.8%)が最も多く、次いで「②環境に配慮した消費行動(47.9%、前回48.4%)」、「③食の安全安心に取り組む生産者からの購入(47.3%、前回46.5%)」の順に多かった。

問13 あなたが食の安全安心の確保のため、行政の取組に求めることは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



行政の取組に求めることは、「①食品関連事業者の意識改革、モラル向上(43.0%、前回34.8%)」が最も多く、次いで、「⑤食品表示の監視・指導の強化(39.4%、前回41.8%)」、「⑥農薬等の適正な使用に関する指導の強化(33.9%、前回37.3%)」の順に多かった。

問14 あなたが日頃、食の安全安心に関する情報を得ている方法は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

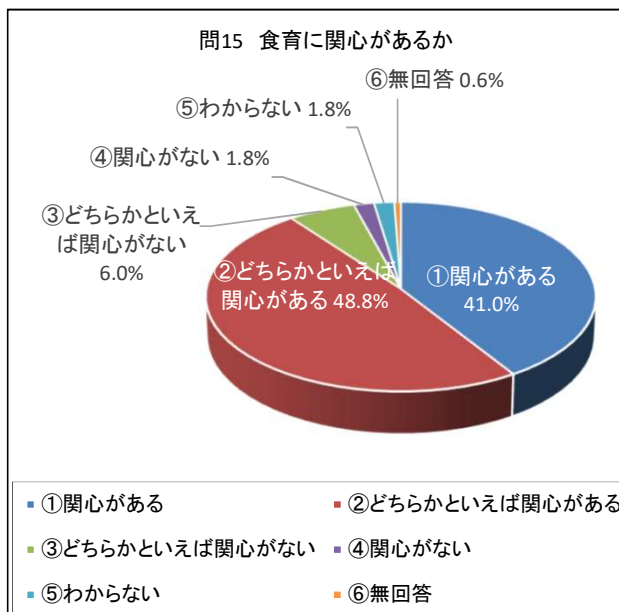


※「その他」の主なもの: スーパーマーケット、有識者との情報共有、商品に貼っている生産者等の表示内容、地域住民の声、村の広報誌 等

食の安全安心に関する情報を得ている方法は、「①テレビ(80.7%、前回76.1%)」が最も多く、次いで「③新聞(63.9%、前回60.4%)」、「⑤ホームページ(33.7%、前回36.5%)」の順に多かった。

問15 あなたは、食育に関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

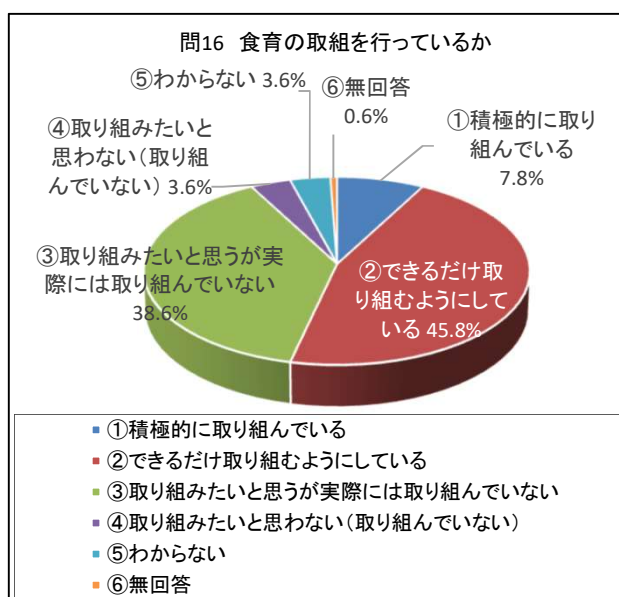
①関心がある	68
②どちらかといえば関心がある	81
③どちらかといえば関心がない	10
④関心がない	3
⑤わからない	3
⑥無回答	1
計	166



食育に関心がある人は89.8% (前回83.6%) であり、ほとんどの人が食育に関心を持っている結果となった。

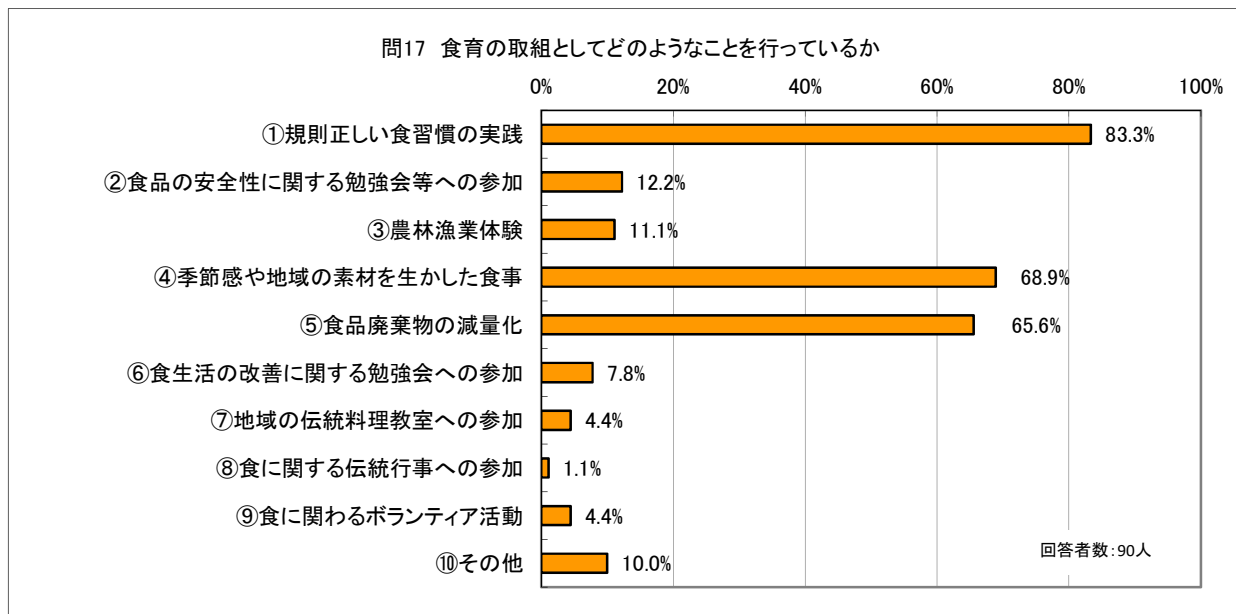
問16 あなたは、食育の取組を行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①積極的に取り組んでいる	13
②できるだけ取り組むようにしている	76
③取り組みたいと思っているが、実際には取り組んでいない	64
④取り組みたいと思っていないし、取り組んでもいない	6
⑤わからない	6
⑥無回答	1
計	166



食育の取組を行っている人の割合は53.6% (前回51.6%) である。また、取り組みたいと思っているが実際には取り組んでいない人が38.6% (前回35.2%) であり、取組をしやすい環境づくりや場の提供を推進することで、食育の取組の拡大が期待できる。

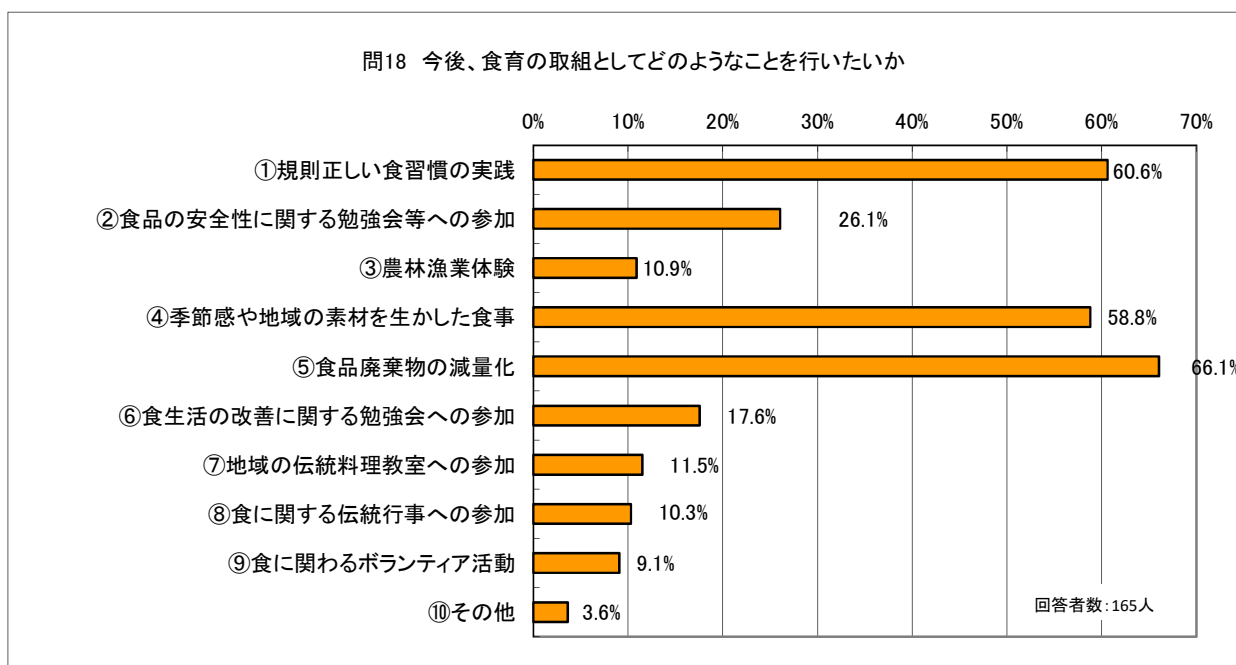
問17 問16で①又は②を選んだ方にお聞きします。
食育の取組としてどのようなことを行っていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの: 食育に関する情報収集・情報発信、仕事上での食育事業の取組、祖母や母から引き継いだ味や地域の伝統料理を子供たちに食べてもらう、食育に関するテレビ番組の視聴、食農体験への協力や議員要請、政策提言、SNSなどでの政策現場の情報や声の発信 等

食育の取組として行っていることは、「①規則正しい食習慣の実践(83.3%、前回82.9%)」が最も多く、次いで「④季節感や地域の素材を生かした食事(68.9%、前回87.8%)」、「⑤食品廃棄物の減量化(65.6%、前回79.3%)」の順に多かった。

問18 あなたは、今後、食育の取組としてどのようなことを行いたいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

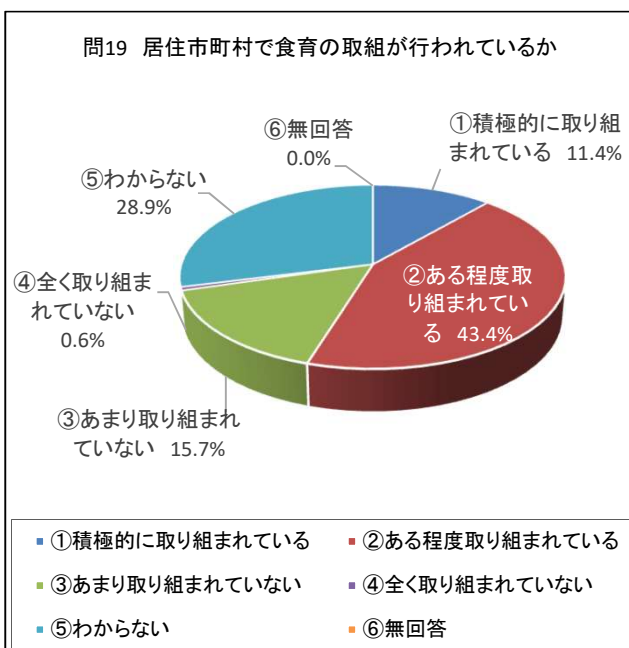


※ 「その他」の主なもの: 食文化を学ぶ、祖母や母から引き継いだ味や地域の伝統料理を子どもたちへ伝承する、食と地域の為に要請活動、政策提言、発信活動を行う 等

今後、食育の取組として行いたいことは、「⑤食品廃棄物の減量化(66.1%、前回67.3%)」が最も多く、次いで「①規則正しい食習慣の実践(60.6%、前回57.7%)」、「④季節感や地域の素材を生かした食事(58.8%、前回62.2%)」の順に多かった。

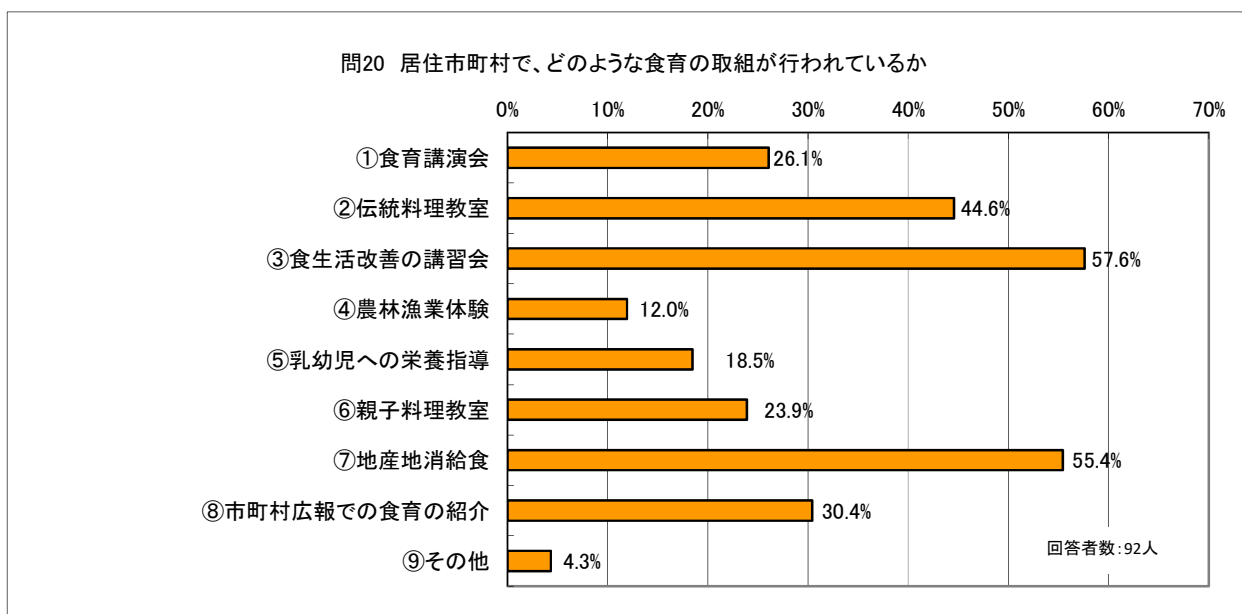
問19 あなたのお住まいの市町村では、食育の取組が行われていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①積極的に取り組まれている	19
②ある程度取り組まれている	72
③あまり取り組まれていない	26
④全く取り組まれていない	1
⑤わからない	48
⑥無回答	0
計	166



居住している市町村で食育の取組が行われているとした割合は54.8%（前回50.9%）と前回より増加した。また、取組の有無が分からないという回答は28.9%（前回36.5%）と前回より減少した。

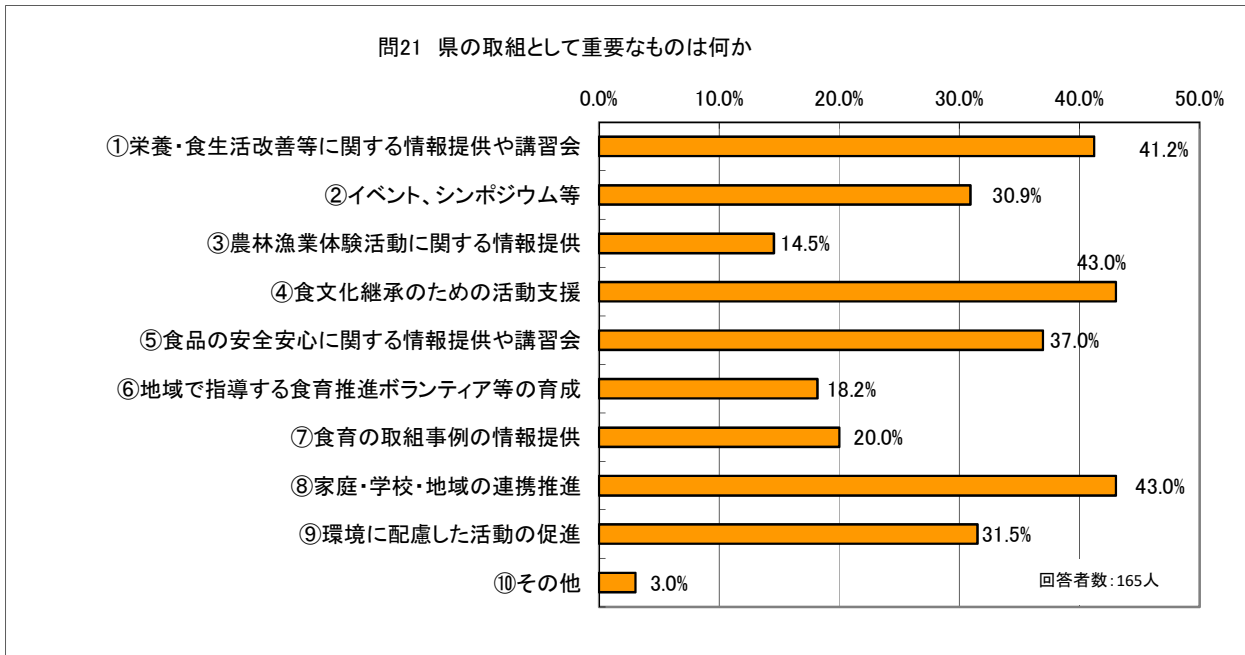
問20 問19で①又は②を選んだ方にお聞きします。
あなたのお住まいの市町村では、どのような食育の取組が行われていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの: 健康診断の結果に基づく個人への栄養指導、餅食文化の伝承 等

居住市町村の食育の取組内容は「③食生活改善の講習会(57.6%、前回59.3%)」が最も多く、次いで「⑦地産地消給食(55.4%、前回43.2%)」、「②伝統料理教室(44.6%、前回49.4%)」の順に多かった。

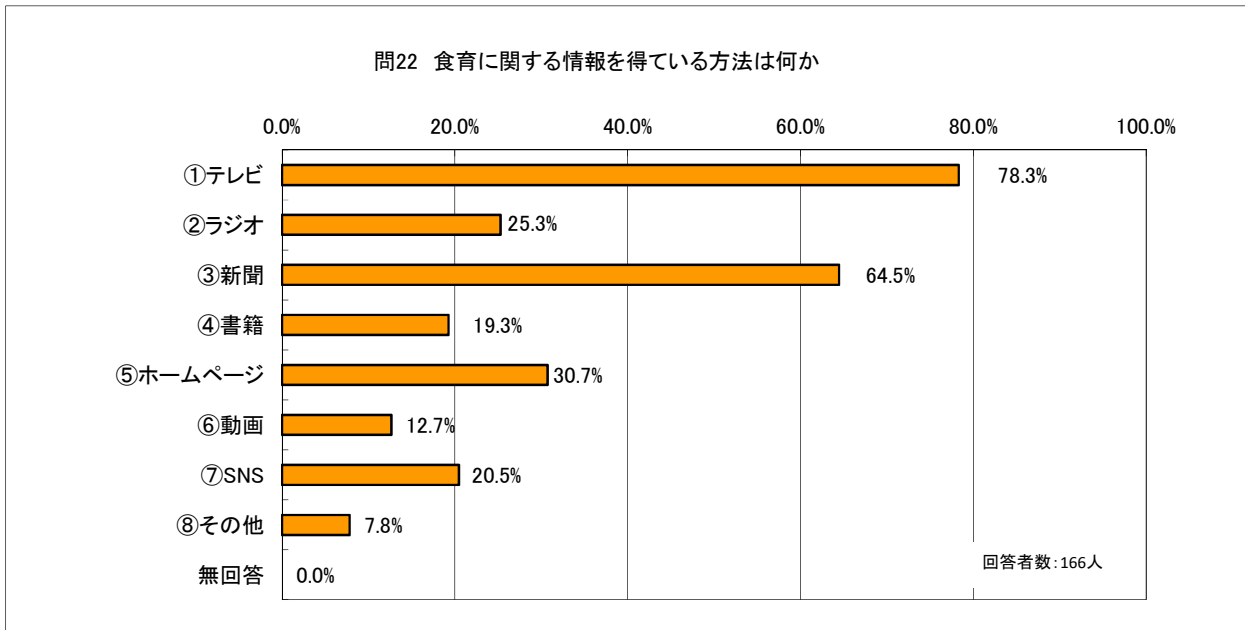
問21 食育を進めるための「県の取組」として、重要だと思うものは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 食文化の楽しさを伝えるガストロノミー教育、再生産可能な生産環境の担保、生産者、販売者、消費者双方においての合理的で適正なフェアトレードの実現、食育と健康寿命を伸ばす取組 等

県の取組として重要なものは、「④食文化継承のための活動支援(43.0%、前回46.8%)」「⑧家庭・学校・地域の連携推進(43.0%、前回33.5%)」が最も多く、次いで「①栄養・食生活改善等に関する情報提供や講習会(41.2%、前回32.3%)」、「⑤食品の安全安心に関する情報提供や講習会(37.0%、前回44.3%)」の順に多かった。

問22 あなたが日頃、食育に関する情報を得ている方法は何か。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: スーパーマーケット、市町村広報紙、教育機関からのお便り、関係機関等との交流、地域イベントへの参加 等

食の安全安心に関する情報を得ている方法は、「①テレビ(78.3%、前回80.5%)」が最も多く、次いで「③新聞(64.5%、前回59.7%)」、「⑤ホームページ(30.7%、前回30.8%)」の順に多かった。

問23 食の安全安心、食育について、日頃感じていることがあれば御自由にお書きください。

1	無農薬がいいといいながら、葉野菜に虫食いの穴があいているのを嫌うとか、農業者をいじめるような中途半端な知識の消費者を減らしたいというのは、実際に農業体験をしてみてもわかったこと。JAも、同じ大きさ、同じ長さの野菜だけを子どもが信じこまないような工夫が必要なのではないか。
2	消費者として安全な目に見える可視化の情報で判断できる正確な情報がほしい。
3	食育は家庭からです。健全な食生活の普及推進を。
4	県内において元日から発生した高病原性鳥インフルエンザの対応にあたっている関係者の皆さんお疲れ様です。また、生産者の方々のご心痛お察しいたします。食の安全安心に関しては、日頃の生産者の高い意識はもとより、事案ごとに国や県による適切な情報提供によって維持されていると思います。しかし、食育については、「いのち」を頂く、食べ物に対する感謝の気持ちを幼児期から育ませる必要があると考えます。これは道徳的にも意義があると思いますし、今回の調査とは外れますが「操情教育」に繋がるものと確信します。また、県内の地域に伝わる料理を次代に伝承していくための取組みも市町村と協力して行っていくべきと考えます。
5	食の安心安全に繋がるような環境汚染の問題も定義されています。生産者さんや事業者の方々の努力もありますが、消費者側も購入後のゴミの分別や廃棄方法などをもっと勉強・実践し、食の安心安全と一緒に作り上げていかなくてはと考えています。「子どもたちにも、ゴミ箱に入れれば全部OK!」ではなく、その後のことを考えて分別することの大切さや、お菓子を買ってきたら、パッケージも含めて購入してきたことになり、責任はあなたにあるのだからどうする?と、一緒に分別を頑張っています。また、県には規格外商品のアップサイクルに力を入れて欲しいです。天候や気候の変化が大きい分、規格外のもので出来てしまったとしても、皆さんの知識やアイデアで廃棄率の減少や仕事へのやりがいに繋げていただきたいです。
6	地産のものを使用したインスタント食品やかんたん3分調理レシピを学校でパンフレットとして子供に渡してほしい。(食べ物に対しての関心を親子ととも得るため)
7	近所で食卓を一緒にする生活形態を無くしたことが、地域連携が失われた一歩になっている。安全で共通性のある地域活動を進める事が出来る方法です。
8	食育は大人だけではなく、小学校の時から勉強するチャンスを与えるべきと思う。子供の時の記憶は大人になっても憶えているものである。
9	様々な情報があるので、何が正しいかよくわからない。医師が言うことも(意見がバラバラで)どこまで信じていいかわからない。エビデンスも本当に信じていいかわからない。正しいとされることもどんどん変わっていく。県はそういうことを認めた上で、現在より正しそうなことは何かという情報発信をして欲しい。
10	最近、お菓子や食品の中、製造は外国名で、販売は日本国名で書いてある品物を見ることがあります。
11	食について特別な事はしていないと思います。野菜などはなるべく旬の時期にと思いながら、値段と相談しながら冷凍食品を購入することも多いです。四季の行事食だけは孫達にできる限り振る舞いたいと思っています。
12	食の安全安心は自分が直接口にするものだから関心があつたが、食育は子どもがいる家庭が中心だと思っていたため、関心がなかった。今回の調査で、食育が「全ての人が生涯にわたり健全な食生活を」ということを知った。私のように「食育」について理解していない人の多いのではないだろうか。今後は関心を持って情報等を見ようと思う。
13	食の安全安心に関心があり、栄養成分等を見たり、季節の物を求め、産直を訪れるのが楽しみです。
14	学校給食の重要性から繋がり、子ども達世代に食育の大切さを教えていく実践の強化
15	住民や地域、団体等の食育への取組が良く分からない。具体的な取組の内容の見える化が必要だと思います。(県民、家庭での取組アンケートなどがあれば良い)
16	食は生活の最大の基本だと思います。食には全世界様々な食文化があり、我が国にも日本食と言った素晴らしい食文化があります。日本食と言っても北海道から九州、沖縄まで様々な食があります。平成25年12月、「和食;日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。私は、食と経済が非常に関係していると思います。経済が成長している時代は、食も豊かに感じられます。逆に経済が思わしくないような状況の場合には、食も豊かには感じられないように思います。現在、我が国では食事も思うようにできていない状況の方が聞かれます。日本のGDPも現在は4位となっています。私は今ここで経済を考え、行動しなければいけないと思います。経済は食につながる。

17	地産地消はとても良い取組だと思うが、今の野菜はどれだけの栄養が取れるか疑問だし、そもそも農薬や肥料に頼らざるを得ない今の農家の状況が、更に土地をダメにしている可能性がある 肥料や農薬の値段も益々上がるのは目に見えているので、今こそ無農薬や有機農業をいち早く見直し、岩手県ブランドを強固なものにするべきだと感じています。
18	子供の頃からの食生活の豊かさや経験の有無は貴重な経験となることから、給食や普段の食生活は大切だと思う。機会を設けることは大事だと思う。
19	食品が豊富に出回っていて、食料を大切に扱わなくなってきたように感じる。輸入が止まったことを考えると不安である。
20	最近食料品などの値上がりが続く中、安売り(安価)な物を有難い傾向があると思いますが、安全性を度外視した価格優先の人が増えるのはあまりよくない流れかと思っています。
21	バランスのとれた食卓を目指しているが難しいです。片寄った料理となってしまう事が多いので反省しているところです。
22	岩手県には野菜や果物、肉魚など、どれも新鮮なものがたくさんあるので、いろんな道の駅や産直に行って地元のものを購入するのが楽しみの一つです。そのまま食べてもおいしいものもありますが、調理方法などをもっと知りたいです。
23	毎日行うことでもあり、現在及び将来にわたり重要です。
24	アレルギーについてや、賞味期限と消費期限の違いについて等、生産者・製造者だけでなく、消費者も食の安心安全について知ること、食品ロスの削減や食育にも繋がると思います。正しい知識の周知に力を入れて欲しいです。
25	地産地消の安全食材使用が、体に良いと思っています。
26	いつも安全な食品を提供していただきありがとうございます。今後、もし何か問題が発生した場合は速やかに対応していただきたいです。
27	農業等をもっと自然的成分の物を使用したいと思いますが、化学物質の方が効果が高く、手っ取り早く安い価格で出回れば、土の汚染が防げる。育つ物が安全だと土の栄養価が上がる。
28	日頃、地産地消、また国産で安全安心な食品を購入することを心がけていますが、スーパーなどは圧倒的に輸入品が多く、そして国産品より価格が安く、財布と相談しなければならない場合があります。 政府にはもっと第一次産業を守る政策を重視してほしいです。日本の食料自給率を上げることは至急の政策ではないでしょうか。「食」が豊かであってこそ人々の心身の健康が保たれ、より豊かな暮らしができると思います。
29	スーパーの野菜価格が高いので産直で安く地元の野菜を買うようにしているが、土が多くついていたたり、ゆでた葉物野菜に農薬を強く感じることもある。個々に使っている農薬、肥料は違うと思うが、指導や検査は大丈夫でしょうか。心配です。
30	産地表示のルールなど疑問に感じることも多いので、正確な情報を知れるようにしてほしい。
31	インスタント食品が溢れていることへの不安。
32	「おいしい」としか言わないグルメ番組や、胃袋の容量を無視した大食い番組が多く、食事の目的をしっかりと伝えるメディアが少ない気がする。もっと食材や食文化に焦点をあてた番組が多くなってほしい。
33	地域に限らず伝統の事を勉強したいと自分自身感じた。
34	農薬残留、産地が違う、食肉には向いてないものなど、たくさんのニュースがありますが、岩手県はずばらしく“食育”をしていると思う。食に関しては、岩手はものすごくしっかりしていると思う。やはり地産地消が一番だと思うし安心して食べられるので、せつかくの岩手の安全な食材をアピールしてほしいと思う。
35	一関市では世嬉の一酒造を中心に、餅料理の提供を初め、餅食文化の伝承に力を入れており、食に対する感謝の念や礼儀作法を学ぶことができる。また、餅サミットなどのイベント開催も餅食文化の伝承に貢献している。出来ることなら、一関市など限られた地域のみならず、県を挙げての伝承、PRIに務めるべきと考える。

36	何でも美味しく食べられる人と、偏食な人との差はどこで生まれるのか、ずっと不思議に感じています。子どもたちが、好き嫌いなくなんでも美味しく食べられるよう、できるだけ地元のもので食べられるよう願っています。それが大人になっての食生活、ひいては健康に繋がると思うからです。市町村と県の取組に期待します。
37	地場食材だけでなく、スーパー等で売っている果実などは、特に残留農薬がとても気になる。
38	産地偽装などは消費者は知りえることができないので信用して購入することしかできません。健康であるためにも食は大切なので安心して地産地消できる環境であることを願っています。形が不揃いでも消費期限が短くてもよいので、廃棄する食品が減るようにそういった食品を販売してもらえるようになれば価格も安くなると思うので、もっと増えるように期待しています。
39	子供の頃からの食育指導が必要だと思っていて、実際に自分が食べている野菜だったり、その他の作物などがどのように出来るか、育っているかを認知させること。また、その地で育った野菜などを食してもらい、農業の面白さや裾野が広いことなどを周知させることが必要だと思う。
40	独身者を対象とした食育が少ない。子持ちの料理教室はあるが、独身者はなかった。
41	自分は現在健康であり、食品を購入する場合は産地や添加物に気をつけている。しかし、高齢となると買い物や献立など思いどおりに出来なくなる。経済的に豊かであれば、外部委託なども考えられるが、そうでなければ偏った食生活になる。高齢者や一人暮らしにあった食生活の講習などを希望します。元気うちに受講したいものです。
42	食の安全安心については、「原材料産地」の確認をしているところですが、中国産が非常に多いように感じています。食育については、孫の通っている学校給食の献立表(裏面は、食育だよりとなっております)が、昔(昭和時代)と比べてかなり詳細に記されており、保護者にとっても食育の一端になっているように感じています。
43	食育は幼児期からの母親の献立の重要性を今さらながら大切なことだと痛感する。学校給食は子どもたちにとっても楽しみである。いろんなこと、偉人・郷土・外国メニューなどをたくさん学び、食に関することを広げ、自分の体の健康、成長に繋げてほしいと願う。物価高でも国産、地産地消にこだわりたい。イオンとかで「健康DAY」として何か企画してほしい。
44	食べ物が何でも手に入る現代において、食の安全安心に対していつも安心している訳でなく、不安である。なるべく旬の物、地産地消の物を買ひ、肉類は輸入の物は買わないが、加工食品には使われていると思ひながらも購入している。
45	食べる事は生きることであり、健康に過ごすことができるよう食育に関心をもっていきたい。
46	最近全国的に子ども食堂の活動が盛んで、当町でも若い人たち(60代)が取り組んでいるので、寄附金に協力させてもらっています。
47	子ども食堂に関する記事を目にすることがあります。充分食事を摂れない方がいる一方、食べ残しも社会的問題になっています。より多くの方が食べ物に関心を持ち、地産地消、国内生産を高めて、より豊かな食生活を築いていけたら良いと思います。
48	肥料や農薬、添加物など、昔と現在の比較があれば食育に対する興味が出ると思う。
49	食品添加物について、国の基準を満たしているから「安全」なのではなくて、もっと世界各国の基準や知識を得るチャンスが欲しい。食育について給食など作られる過程や施設見学など、子供に体験させることがあるといい。
50	食の安全とは何か、食料・農業・農村基本法が改正され、基本計画の議論がされてるなかで、生産者、事業者、消費者、そして行政の責務と役割がそれぞれ明確に示されることが必要である。特に、わが国の食料基地の岩手県の計画においても明確に示されることは必須であり、そのうえで県としての具体的な政策がフレキシブルかつ迅速に施される必要がある。今の絆創膏の様な対処的施策ばかりでは、あと5年と生産現場は持たないのではないだろうか。予防医療や治療の様な本質に向けた施策を要望する。今まで県が目指した姿にどのような工程でチャレンジしてきたのか、また、その運営結果の責任の所在はどこなのかを精査し、これからは更に具体的な数値目標を立てPDCAサイクルを回し、具体的な工程、情報と責任所在を示し続けながら、更なるチャレンジを期待します。

51	今回、このアンケートに回答しながら、これは生産者－流通－消費者という経路の食の安全性についてのアンケートで、飲食店で食べる際の安全性(店舗の衛生面等)は対象外なのかなと感じました。そういった意味で、「消費者から見た食の安全性」と一括りに言っても、「流通食品の安全性」と「飲食店での安全性」は管轄が違うのかなと思ったのですが、実際はどうなのでしょう。もし管轄が別であれば、このアンケートの冒頭で「流通の食の安全性について」と書いてくれればありがたかったです。また、もし上記のように管轄が別れているのであれば、「食の安全」という共通目標に向けて、縦割りではなく相互連携で関係機関がシームレスに取り組んでくれるよう望みます。
52	農薬の付有量や遺伝子組替えによる健康に害することがないか不安に思っております。
53	健康寿命が全国最下位の本県にとって、幼・保・小・中・大といった学校教育はもとより、家庭、職場、地域も含めた生涯を通しての食への意識改革と実践が重要である。
54	全てを信じたい気持ちはありますが、そこまで個人となると食育に関して理解しているのか少し不安ではありません。
55	食育のイベントはもっと広く参加できる機会があると良いと思う。
56	義務教育期間の学校給食への公的資金を増やして、給食内容の充実と、家庭の給食費負担を減らしてほしい。
57	食材の産地偽装は一時的に話題となり騒ぐが、ほとぼりが冷めるとまた繰り返し発生する。国内はともかく国外(中国等)から輸入して国産品と偽り、数十年も販売提供されている事例もあります、食材の品質には差異が無いのでしょうか。消費者は信用して購入しています。明らかに偽装となれば重罰が課せられてもいいのでは、繰り返しの原因(発生は)刑が軽いのでは。
58	トランプ大統領の就任、ロシア対ウクライナの戦争、北朝鮮のミサイル発射などがあり、日本に食材の輸入ストップなどの事態になれば、兵糧攻め状態で日本は食べる物が無くなってしまう懸念が常にあります。また、食品ロスを減らすことを国民みなで取り組んでいくような気運を高める、また、残った食品を再利用する仕組みの構築がぜひとも必要だと思います。
59	食とは切って切り離せないだけにもっと関心を持って過ごさなければと今回のアンケートで思いを新たにしました。子ども達が小さいときは食育食育と保育所や小、中学校とともに取り組みましたが、いざ大人になると疎かにしてしまっていたなと反省です。
60	バランスのとれた食事をすることや孤食しない家庭での食事の重要性の啓発について、テレビ、ソーシャルメディア等を利用して周知を図る。
61	健康を守るには、食の安全性が必要不可欠と考えており、食の安全性に非常に関心がありますが、食料品の価格高騰が続いているため、安全性の確保が優先できなくなりつつある状況です。本来は、国産の中でも信用のできる生産者の食品を選んでいましたが、最近は外国産の物を選ばざるをえない状況になってきました。せめて地域で採れた野菜や肉、魚を積極的に取り入れ、生ごみを出さないように工夫して調理をし、食べ残しによる廃棄を無くすことを日頃から心掛けています。
62	子どもの頃食べていた、いわゆる「昔の食べ物」を食する機会が、どんどん減っています。季節に関係なく、いつでも好きな物を、気軽に購入できる、本当に便利な世の中です。節句など、どの地域で作っていた物を残すような活動をしないと、作れる方々が亡くなってしまうと、料理そのものが失われてしまうことになります。地域を巻き込んで、今のうちに活動の輪を広げていく必要性を感じています。
63	肉類の購入にあたり、どのような環境と管理で行われているのか気になります。
64	体調を崩して食の大切を痛感しました。行政もメディアもかなり健康、食育について情報発信していると思います。あとは自分の実行あるのみだと思いました。
65	値段の安さだけにとらわれず、最近は産地表示なども見るようになってきてます。食育教室などは男性は行きづらいところがある。でも、食育に対する自分の意識や関心は以前とは違い高まっています。

66	県産食材を利用したいと思っています。産直やスーパー内の産直コーナー等利用しますが、残り物の粗悪な物も目に付きます。そのような物で大丈夫かと気になります。悪かろう安かろう的なものでは困ります。安全にも不安が残ります。産直って大丈夫ですか？
67	私達がまず確認できるのは食品表示ですので、その偽装だけはしないでいただきたいと思います。
68	食育は子供に対してはもちろん必要と思いますが、親子で食育する必要があると思いますし、広く言えばあらゆる世代にも必要と思います。
69	国産のものを食べたいと思っても金額で商品を選んでしまう。産直は安くて新鮮でとても嬉しいです。
70	表面上は偉そうな書いている割に、実態とかけ離れている自分が恥ずかしいと感じることがあります。
71	岩手県食材に信頼をおいています。郷土食という点での食育ですが、若い世代ほど薄れているのではないでしようか。広い県内、地域地域の郷土食があるのが恵みですので、是非とも子どもたちに残してほしいです。
72	興味や学びたいことは、地元での講習会への参加より ネットなどで学ぶ方が実り多く感じています。籠もらず、出かけることは大事だけど、その場で不快感を味わうよりはネットの方が良いと思う昨今です。
73	食物を粗末に扱う人が増えていると感じます。子供もそれを見て育ちます。そこからスタートした方が良いのでは？お金で何でも買えますが、作ってくれた人への感謝を教育すべきではと思います。